

未収債権の目標及び具体処理策

所属	城東区役所	課・担当	総務課	債権整理番号(3ケタ)	001	債権名	区広報紙広告料【城東区】	債権区分	私債権
----	-------	------	-----	-------------	-----	-----	--------------	------	-----

1. 30年度の未収金残高目標の達成状況

過年度	-	現年度	-	合計(過年度+現年度)	-	「A」… 目標を達成、「B1」… 取組は予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組を予定通り実施できず、目標も未達 「-」… 30年度途中に債権が新規発生したことにより目標設定していなかった場合など
-----	---	-----	---	-------------	---	---

2. 未収金残高の推移(実績及び目標)

(単位:千円)

	過年度分								現年度分								合計		
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定変更額	調定額 (過年度分)	徴収額 (過年度分)	不納欠損額 (過年度分)	未収金 解消額 (過年度分)	翌年度 調定繰越額 (過年度分)	過年度 徴収率	過年度 整理率	年間調定額 (現年度分)	徴収額 (現年度分)	不納欠損額 (現年度分)	整理額 (現年度分)	翌年度 調定繰越額 (現年度分)	現年度 徴収率	現年度 整理率	合計 徴収率	合計 整理率	年度末 未収金残高
	ア =前年度のテ	イ	ウ =ア-イ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =ア-カ	ク =エ÷ウ	ケ =カ÷ア	コ	サ	シ	ス =サ+シ	セ =コ-ス	ソ =サ÷コ	タ =ス÷コ	チ =(エ+サ) ÷(ウ+コ)	ツ =(カ+ス) ÷(ア+コ)	テ =キ+セ
平28実績	40	0	40	0	0	0	40	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	0.0%	40
平29実績	40	0	40	0	0	0	40	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	0.0%	40
平30当初目標			0			0	0	-	-				0	0	-	-	-	-	0
平30実績	40	0	40	0	0	0	40	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	0.0%	40
令元当初目標			0			0	0	-	-				0	0	-	-	-	-	0
令元努力目標	40	0	40	0	0	0	40	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	0.0%	40
令2当初目標	40	0	40	0	0	0	40	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	0.0%	40

3. 30年度決算における未収債権の状況(件数、未収金残高、債務者数)

(残高の単位:千円)

旧分類	回収債権								整理債権								合計 ①~⑯
	③-C ①	③-D ②	③-E, F ③	③-G ④	① ⑤	②-A ⑥	②-B ⑦	③-H ⑧	④ ⑩	⑨、⑩ ⑪	⑧ ⑫	⑤ ⑬	⑦ ⑭	⑥ ⑮	⑩~⑯ 計		
強制公	滞納発生直後のもの(督促状未送付のもの)	督促状送付後、各種催告中又は納付交渉中のもの	督促状送付後、各種処分に向けて、財産調査中又は行方不明等で所在など調査中又は個人債務者が死亡したため、相続人調査中のもの	差押手続中のもの又は又は交付要求中のもの	差押え後、換価手続中又は又は換価予定のもの	換価猶予等又は又は履行延期の特約等又は又は分納契約により、分割納付中であり、現在の分割納付額で、10年以内の完納見込があるもの	換価猶予等又は又は履行延期の特約等又は又は分納契約により、分割納付中だが、現在の分割納付額では、完納まで10年以上要するもの	換価猶予等又は又は履行延期の特約等又は又は分納契約を行ったが、履行が滞り、再度、納付交渉中のもの	差押えを行ったが、換価見込のないもの又は又は換価済だが、未収金が残りの換価見込のないもの	所在など調査後、なお、行方不明等又は又は相続人調査後、なお、相続人が未確定であるが、停止の判断にまわっていないもの	債務者の代理人から債務整理の委任通知が届いたもの又は又は債務者が破産手続中のもの	債務者が破産免責決定を受けたもの	法に基づく滞納処分の停止の決議を行っているもの	債務者が生活困窮中だが、債権の特性上、停止の決議を行えないもの	消滅時効期間が経過しているもの	整理債権 ⑩~⑯ 計	合計 ①~⑯
過年度	件数								0		1					1	1
過年度	残高								0		40					40	40
現年度	件数								0							0	0
現年度	残高								0							0	0

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
 ① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例: 毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なっている場合、3の表は、相続された債務額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ①→②→③⇒回収債権:(④→⑤)又は⑥又は⑦又は⑧又は⑨ / 整理債権:(⑩又は⑪又は⑫→⑬)→⑭又は⑮→⑯

30年度末時点の債務者数	1	過年度件数計+現年度件数計=30年度未収金件数	1
		過年度残高計+現年度残高計=30年度未収金残高(上記2の表のテ)	40

4. 30年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容	23年度に銀行口座への差押手続きを行ったが、残高不足のため、手続きを継続する経費の方が高額となるので取下げた。引き続き30年度も新たな財産が判明すれば、改めて強制執行等の手続きを行う。 また、不納欠損の処理についても検討する。	-
取組実績	30年度中に新たな財産が判明しなかった	-
課題	-	-
改善策	-	-

5. 令和元年度の取組内容（1.「30年度の未収金残高目標の達成状況」及び4.「30年度の取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載すること）

	過年度	現年度
取組内容	23年度に銀行口座への差押手続きを行ったが、残高不足のため、手続きを継続する経費の方が高額となるので取下げた。引き続き令和元年度も新たな財産が判明すれば、改めて強制執行等の手続きを行う。 また、不納欠損の処理についても検討する。	-

未収債権の目標及び具体処理策

所属	城東区役所	課・担当	市民協働課	債権整理番号(3ケタ)	003	債権名	区役所附設会館使用料【城東区】	債権区分	非強制徴収債権(非強公)
----	-------	------	-------	-------------	-----	-----	-----------------	------	--------------

1. 30年度の未収金残高目標の達成状況

過年度	A	現年度	-	合計(過年度+現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標を達成、「B1」… 取組は予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組を予定通り実施できず、目標も未達
 「-」… 30年度途中に債権が新規発生したことにより目標設定していなかった場合など

2. 未収金残高の推移(実績及び目標)

(単位:円)

	過年度分								現年度分								合計			
	前年度からの調定繰越額	年度中の調定変更額	調定額(過年度分)	徴収額(過年度分)	不納欠損額(過年度分)	未収金解消額(過年度分)	翌年度調定繰越額(過年度分)	過年度徴収率	過年度整理率	年間調定額(現年度分)	徴収額(現年度分)	不納欠損額(現年度分)	整理額(現年度分)	翌年度調定繰越額(現年度分)	現年度徴収率	現年度整理率	合計徴収率	合計整理率	年度末未収金残高	
	ア =前年度のテ	イ	ウ =ア-イ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =ア-カ	ク =エ÷ウ	ケ =カ÷ア	コ	サ	シ	ス =サ+シ	セ =コ-ス	ソ =サ÷コ	タ =ス÷コ	チ =(エ+サ)÷(ウ+コ)	ツ =(カ+ス)÷(ア+コ)	テ =キ+セ	
平28実績			0			0	0	-	-				0	0	-	-	-	-	0	
平29実績	0	-100	100	0	60	-40	40	0.0%	-	0	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	-	40
平30当初目標			0			0	0	-	-				0	0	-	-	-	-	0	
平30実績	40	0	40	0	14	14	26	0.0%	35.0%	0	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	35.0%	26
令元当初目標			0			0	0	-	-				0	0	-	-	-	-	0	
令元努力目標	26	0	26	0	18	18	8	0.0%	69.2%	0	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	69.2%	8
令2当初目標	8	0	8	0	0	0	8	0.0%	0.0%	0	0	0	0	0	0	-	-	0.0%	0.0%	8

3. 30年度決算における未収債権の状況(件数、未収金残高、債務者数)

(残高の単位:円)

旧分類	回収債権								整理債権								合計 ①~⑯
	③-C ①	③-D ②	③-E, F ③	③-G ④	① ⑤	②-A ⑥	②-B ⑦	③-H ⑧	④ ⑨	⑨、⑩ ⑩	⑧ ⑫	⑤ ⑬	⑦ ⑭	⑥ ⑮	⑩~⑯ 計		
強制公	滞納発生直後のもの(督促状未送付のもの)	督促状送付後、各種催告中又は納付交渉中のもの	督促状送付後、各種処分に向けて、財産調査中又は行方不明等で所在など調査中又は個人債務者が死亡したため、相続人調査中のもの	差押手続中のもの又は又は交付要求中のもの	差押え後、換価手続中又は又は換価予定のもの	換価猶予等又は又は履行延期の特約等又は又は分納契約により、分割納付中であり、現在の分割納付額で、10年以内の完納見込があるもの	換価猶予等又は又は履行延期の特約等又は又は分納契約により、債務者の資力回復を待つため、分割納付中だが、現在の分割納付額では、完納まで10年以上要するもの	換価猶予等又は又は履行延期の特約等又は又は分納契約を行ったが、分割納付の履行が滞り、再度、納付交渉中のもの	差押えを行ったが、換価見込のないもの又は又は換価済だが、未収金が残りのないもの	所在など調査後、なお、行方不明等又は又は相続人調査後、なお、相続人が未確定であるが、停止の判断に当たっていないもの	債務者の代理人から債務整理の委任通知が届いたもの又は又は債務者が破産手続中のもの	債務者が破産免責決定を受けたもの	法に基づく滞納処分の停止の決議を行っているもの	債務者が生活困窮中だが、債権の特性上、停止の決議を行えないもの	消滅時効期間が経過しているもの	整理債権計	合計計
過年度	件数								0					4		4	4
残高									0				26			26	26
現年度	件数								0							0	0
残高									0							0	0

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
 ① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例: 毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なっている場合、3の表は、相続された債権額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ①→②→③⇒回収債権:(④→⑤)又は⑥又は⑦又は⑧又は⑨ / 整理債権:(⑩又は⑪又は⑫→⑬)→⑭又は⑮→⑯

30年度末時点の債務者数	3	過年度件数計+現年度件数計=30年度度末未収金件数	4
		過年度残高計+現年度残高計=30年度度末未収金残高(上記2の表のテ)	26

4. 30年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容	未徴収となっている本債権は、地方自治法施行令第171条の5第3号及び大阪市未収債権管理事務取扱規則第8条に基づき、徴収停止を行っている。 本債権の時効期間は地方自治法第236条により5年であり、今後、時効が完成するものについて、不納欠損処理を行う。	-
取組実績	時効が完成するものについて、不納欠損処理を行った。	-
課題	-	-
改善策	-	-

5. 令和元年度の取組内容（1.「30年度の未収金残高目標の達成状況」及び4.「30年度の取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載すること）

	過年度	現年度
取組内容	時効が完成するものについて、不納欠損処理を行う。	-